

市長の市政報告

平成23年3月11日は、日本史において長く忘れられない日となりました。市民の皆さまには、温かい義援金・義援物資を賜り、義援金は9月末まで受け付け、合計3,900万円という多額になりました。改めて厚くお礼申し上げます。今後は市内での防災体制と県内外の他自治体との災害応援協定の強化に努め、一層、安全安心なまちづくりを進めてまいります。

三豊市長 横山忠始

『22年度決算 最優良達成!』

県内自治体の平成22年度決算に基づく財政指標が公表されました。皆さまのご協力のおかげで、三豊市は合併特例が効いているとはいえ、県内8市の内で、最もいい財政状況になりました。5年前の合併以来、精力的に進めてまいりました行財政改革がひとつの成果を出すことができましたこと改めて

2010年度 財政健全化判断比率

	実質公債費比率(%)	将来負担比率(%)
三豊市	9.6	21.6
高松市	11.9	99.3
丸亀市	9.9	75.7
坂出市	16.7	136.6
善通寺市	14.6	39.6
観音寺市	13.6	126.1
さぬき市	20.8	84.1
東かがわ市	15.6	35.0

お礼申し上げます。

しかし、私たちはこの瞬間に甘んじることなく、むしろここを分岐点として、次のステージ、新三豊時代に向けて強気に歩みを進めていかなければなりません。

次のステージのまちづくりは、次世代へつなぐ次世代のための市民総力戦です!!

【認知度8位】

四国学院大学のカルチュラル・マネジメント学科が行った香川県内での市町認知度調査により、17市町のうち三豊市は第8位でした。

合併して5年ですが、まずここまでこれたことを喜んでいきます。まだ旧町名の方が認知度があると思っていただけに、宇多津町や多度津町の上位になったことはすばらしいことです。

しかし、まだまだ8位ですし、同じ時期に合併した新市でも、さぬき市は4位でありますので、去年来展開しております知名度向上プロジェクトを継続し、今後さらに認知度や好感度を高めてまいります。

【交流の拡大】

10月29日、会員など約60人が参加して「関西・三豊市ふるさと会」が設立されました。去年の11月25日に発足した「関東・三豊市ふるさと会」と併せて、私たちは東京、大阪に大きな拠点を持つことができました。三豊市のために何か役に立ちたいという方々ばかりで、強力なネットワークができたと思えます。

広島県福山市、岡山県瀬戸内市、愛媛県新居浜市、高松市と行っている県境を越えた「瀬戸内フルージングサミ

ンケートを取りました。その中で「三豊市は将来どのようなまちになって欲しいですか」との質問に「海や山などの自然がたくさんあり、ゴミの減量やリサイクル活動に一生懸命取り組む自然を大切にすまち」が一番多い答えでした。

三豊市は、このような次世代のためにも循環型環境都市を目指します。自然エネルギーの活用や「ゴミはすべて資源」という理念のもと「もの」を大切に、可能な限り再利用していく活動を強めています。

まず、三豊の子どもたちが立ち上がってくれました。昨年の12月27日、高瀬高校生徒会がリーダーとなって、市内の小中高のすべての児童会、生徒会



▲使用済みの靴を集めて荷造り

の代表が集まり、それぞれのエコ活動を報告し、三豊の環境問題を考えるという「みとよヤングエコサミット」が開催されました。この会議の中で「三豊市の美しい環境は、私たちが守っていかなければなりません」という私たち大人が心して聞かなければならない、すばらしい発言がありました。

このヤングエコサミットでは、多くの学校がペットボトルのキャップを集めて、ポリオワフチンを発展途上国に送っていますし、使用済みの靴を集めてアフリカの子どもたちに送ることを決め、今年8月末現在で1,220足集まっています。

ワフチンや靴を買えない世界の子どもたちを助けるという、グローバルな視点で小さな活動を続けています。

【循環型環境都市】

懸案の三豊市次期ゴミ処理施設につきましては、先月号で詳しくご報告したように、ゴミとしてすべて燃やしてしまうのではなく、可能な限り再利用する方向に進みます。

さらにそれを民間の技術と資本でやっていたかどうかというのが方向です。なんでも行政がやるのではなく、民間にできることはお願いしていくというのが今からの方向と考えております。

また、問題となっております増え続ける竹林につきましても、資源として

利用できないか、建材・健康・医療・化粧品・ペットフード等、あらゆる方面でいろいろな企業との打ち合わせを進めています。なかなかコスト面で難しいところがありますが、可能なものから実用化へ挑戦していきます。

【産業振興と財政力強化】

長びく景気の低迷に加えて、円高等による産業の空洞化の波が地方にも押し寄せ、働く場の確保は三豊市にとっても最重要テーマとなっています。

地場産業振興のため、中小企業振興基金を設けて、市内企業の新しい挑戦を支援しています。

また、本年は新時代の農業を考え実践するために、市単独で農業振興センターを立ち上げ、現在、各方面との話し合いに入っております。

市内の商業活性化のため、本年も商工会とともにプレミアム商品券を発売し、多くの皆さまにご利用いただいております。

財政状況は良くなったとはいえ、財政力はまだまだ強くありません。産業の振興と雇用の確保は、引き続き最重要テーマとして努力を続けてまいります。

【太平洋戦争と三豊】

豊中庁舎の跡地に市民交流センターが完成し、さまざまな活動が展開され



▲大阪で行われた関西・三豊市ふるさと会設立総会

ット」は、7月3日に新居浜市で開催され、海を通しての交流を一層深めることができました。

また、韓国ハプチョン郡とは交流と友好を強め、本年は双方で経済会議が開催できました。うどんを始めとして、すでに具体的な経済交流が始まっております。三豊市は、日本の地方都市であると同時に世界の地方都市であることを認識しつつ、特にアジアには、交流を広げてまいります。

交流の拡大は、あらゆるマーケットの拡大と考えております。今後一層、外に向かって発信を強めてまいります。

【立ち上がった三豊の子どもたち】

平成19年に三豊市の全小中学生のア



▲2011 大蔵経千年世界文化祝典のうどん交流ブース

ています。オープン記念として「織田朱越と三豊」をテーマに、朱越がつくった銅像の秋山好古、真之兄弟を主人公とした「坂の上の雲」と題した講演会を4月24日に開催し、400人を超える皆さまにご参加いただきました。

今年度は「太平洋戦争と三豊」を文化活動のテーマとして進めています。現在、市内のさまざまな戦争体験談を集めており、多くの皆さまの貴重な証言をお伺いしております。

平成23年も、はや師走となりました。県内そして市内でも交通事故が多発しています。何かと気ぜわしい時期です。十分にご自愛ください。

皆さまのご健勝をお祈り申し上げます。